

だらーつと憲法カフェだより (2023年4月3日)

(1) 2022年12月8日開催の奥間政則さん講演会で寄せられた言葉
奥間政則さん「ふたつの国策 沖縄の基地問題とハンセン病差別」

参加の動機や、感想など

- ・日進市議員のSさんからEメールを受け取ったのが参加の動機です。
 - ・沖縄では、戦争被害で県民の免疫力が低下したことが大きな原因で、ハンセン病の発症が戦後に多かったことを初めて知りました。
 - ・父親からDVを受けたことの本当の理由が、国策によるハンセン病患者への差別にあったことを知る奥間さんの体験談が印象深かった。
 - ・辺野古新基地の東沖でM7.2の地震が2010年にあり、政府機関も「沖縄島の東側での巨大地震の恐れあり」としていることも辺野古の工事を中止させる大きな理由の一つとして大きく取り上げる必要を知って良かった。(NMさん)
-
- ・奥間さんのお人柄を知識としてではなく、肌で感じたかったから参加しました。
 - ・コツコツと資料を集められ丁寧に見つめられて来られたのがよくわかりました。
 - ・ご自身の両親のこと、技術者としての目線、生きる姿がそのままお話に現れていて、お話しされる中身は社会そのものだなと思いました。(Mu Aさん)
-
- ・今回は2回目だったのももう少し理解できるだろうと思い参加しました。沖縄へなかなか行けない自分が正確な現状を知る大チャンス！という気持ちでした。重たい内容てんこ盛りでしたが、奥間さんからの最新情報など緊迫感がとてもありました。
 - ・学生さん対象の講演で是非、国がやってきたこと、これからやろうと画策していることなどを、しっかり伝えていただきたいと思います。(無関心な若者は、若者のせいではないです。おっしゃる通り、ジャーナリズムの責任「大」です。国に忖度しすぎ！)
 - ・“水”問題のことは、全く知りませんでした。生活に直結することなので、弱者に大きく影響すると思います。(Mi Aさん)
-
- ・参加のきっかけは、Tさんを手伝いたい、奥間さんにお会いしたい、沖縄の現状を知って、戦争の危機感を持ちたい、参加者の皆さんに会いたい、でした。知りたかったことは、平和のキープの方法、辛さを癒して生きていく方法。
 - ・奥間さんはどうしてグレなかったのかな、というのが今回も不思議でした。お父さんが辛くてお酒に逃げられたように、同じようになってもおかしくないと思います。シスターの愛情の影響もあるのかな、など考えていました。人々が幸せを感じて生きていけますように、と願いました。私は看護師で、現在も国策的？コロナワクチン打っていますが、墮胎と状況は似ているなあと思いました。私は、幸せな人たちに囲まれて生きてい、幸せなので、辛い思いを抱える人のことを思って、願います。
 - ・「誇りが突き動かす」は私も同じで、人の健康や幸せを願って看護師の仕事をしているのに、ワクチン打つのを勧めるのは、儲かるから、国の方針だから、などが理由なので、すごく悔しいです。奥間さんと同じだあ〜と思えて嬉しかったです。

・昨年と感ずることは似ていたけれど、私も昨年より成長して自分なりに一年を歩んできたなと思ひました。 (Ko A さん)

・アメリカ占領下の二重支配、その支配下の厳しさを知った。
・(奥間さんはこれまでに技術者として海中での建設にも関わり、経験上知っておられる知識があつて、そのために当局の嘘、その説明はあり得ないだろう！と異議を申し立て当局を追及した)、その時折の土建屋魂が、技術者の誇りが、闘いと繋がっていることを思うと、自分自身も、一船員として頑張らなければいけないと、思う。 (Ka A さん)

・2021年12月1日名古屋で初めて奥間政則さんの講演を聞きました。翌年2月、沖縄に行き、読谷村の伝統織物の工房を見たく思ひ、縁うまれて知花昌一さんからの直々のご案内で村内の波平(なみひら)工房の方と出会うことができました。それから、知花さんが奥間さんに電話してくださり、大宜味村内にて三人でお話しする機会をもらひました。昨年の名古屋での奥間さんのお話、ハンセン病差別と基地問題は、私の日々の過ごし方のいいカンフル剤です。今回も皆さんとご一緒に名古屋でお話を聞けてありがたいです。

・奥間さんのお話の内容と画像の準備時間は相当な量だと思ひました。島々にドローン撮影に行く費用もたくさんかかるだろうなと思ひつつ、画像を見ました。

・ハンセン病差別のところで、かーちゃんは手記を書いていない、断つた、という場面で「かーちゃんとはーちゃんよりもっと辛かつたかも」とおっしゃいました。それでも、とーちゃんが息子に手記を遺したように、かーちゃんは娘に口述でも、文章、手紙でも、書いてあげてくれないかなあ、奄美と沖縄のくらしの断片なりとも。 (Su T さん)

以上が感想文です。以下に、主催者の進め方について改善点などのご意見。(全部まとめて)

- ・フリートークの時間が取れるともっと良かった。
- ・参加者同士のお話の時間はやっぱり大切ですね。集うこと大切です。
- ・内容の割に、時間が短いと思ひました。
- ・こじんまりした集会だったおかげで、皆さんのお話を伺えたような気がします。貴重な時間をありがとうございました。
- ・会場の飾り付けがかわいい♡土地規正法もありますし、「～反対」よりも「平和活動」がいいですね。だからフェアトレード最高です。

(2) 12月24日の藤田早苗さんの講演を終えて、いただいた感想文

皆様へ

12月24日の藤田さんの勉強会に参加させていただきました。

「共同親権のもたらす危険性を訴えられている弁護士さん」こと、岡村晴美です。

参加させていただいてありがとうございました。

現在の日本に共同親権を強制する制度を導入しようとしている人たちが、

「日本では、子どもの連れ去り指南をする弁護士ビジネスがある。」

「児童相談所が子どもを誘拐する例もあとをたたない」
などと国際機関に対して精力的なロビーを行っています。
国際的にも、単独親権制度のもとで、子どもが親と断絶しているかのような喧伝がされています。ロビーの資料には、「実子誘拐ビジネスをする弁護士」として、私の顔写真と氏名を掲載したものもありました。

しかし、現実とは全く異なっていて、このような言説は、DV や虐待から避難した親や支援者に対する攻撃となっています。
さらには、避難できなかった家庭から子どもを保護する児相に対する攻撃にもつながっています。国内メディアは、少しずつ適正化してきたものの、国際的な誤解はどうやって解いたらいいのだろうと思っていたときに知ったのが藤田早苗さんでした。

Amazon に藤田さんの著書に対する感想を寄せましたので、こちらに引用します。

https://www.amazon.co.jp/gp/customer-reviews/R2U8FPLB2LTD4L?ref=pf_ov_at_pdctrvw_srp

「国際人権機関が示す勧告に疑問を持ったことからたどりついた本。
人権が損なわれることが常態化していると、それが人権問題だと気づきにくい。
国際的な視点で日本の現状を見直してみたうえで、本質的には何が問題であるのかを伝えていくことの大切さを理解できた。気づいた人が取り組むしかないし、踏み出してみれば道が開けるかも知れない。
人権はすべての人に関わる身近な問題で、人権を守ると言うことは、政府に施策を求めていくということ。そのための選択肢として、条約や国際人権機関は決して遠い存在ではない。年始に読むに相応しい、希望のもてる本だった。」

「どうやって誤解をとくか」、という消極的な話にとどまらず、
日本の女性がDV に苦しみ、「離婚」が人として尊重されて生きることの回復となっている現状を、積極的に国際人権機関に訴えていくという事が必要なのだという思いを新たにしました。

攻撃にさらされる人権活動は、影ながら応援してくれる人は多くても、矢面にたつという場面では、本当に孤独で、日々、泣きたい気持ちとたたかっていたのですが、矢面にたてるだけの環境がととのっている自分は運が良いと思うようになりました。

2月の藤田さんの集会にも参加しようと思います。
大切な機会を与えて下さりありがとうございます。

今の私は、共同親権に反対する活動一色ですが、憲法13条、24条に関する勉強会では講師をつとめることもあります。
ご縁をいただき感謝しております。引き続きよろしく願いいたします。

それから、ケーキも紅茶も美味しかったです。

Mさんは、子どもが同じ吹奏楽団に所属していたママ仲間でした。
久しぶりに再会できてうれしかったです。

岡村晴美（匿名でなくても大丈夫です！）

〒468-0011

名古屋市天白区平針 2-808 ガーデンハイツ平針 1 階

弁護士法人名古屋南部法律事務所 平針事務所

弁護士 岡村晴美

TEL 052-804-1251

FAX 052-804-1265

E-mail harumi.okamura@gmail.com

皆さま

先日はありがとうございました

1月に入って、先週末は3日連続、大阪、京都、徳島で講演会があり、すでに私の新書を読んでいっぱい付箋を付けて持ってこられた人も複数おられました。

まだアマゾンの人権カテゴリーで1位になったりしてます。

2月22日ですが、オンライン配信は事前申し込みで、当日のライブのみに変更です。

後日視聴はできませんので、その点お伝えください。

徳島新聞が記事にしてくれました。添付します。拡散してくださって結構です。

また、来月には毎日新聞が記事を出してくれます。書評も始まります。

では2月22日にお会いしましょう。

藤田

（藤田さんの徳島新聞、記事二つ、末尾に貼り付けました。）

皆様

小中学校の夏休みの選択課題で、人権に関する作文やポスター作成、というのがありましたが、なんとも難しそうで、イメージしにくくそれを選んだことはなかったし、大人になってからも、「人権」と聞いてもあまりピンとこない感じでしたが、日本の人権教育はやさしさや思いやりといったこととして、学校でもぼんやりとしか伝えられていない、思いやりと人権は別物で、生まれた人すべてが能力を発揮出来るようにする義務が政府にあるとお聞きし、とてもすっきりしました。

そしてやっぱりそういう意味でも選挙は大事、
少しずつでも続けることで空気は変わっていく、
というキーワードに希望を感じました。

一方で、弱い立場にある方たちに寄り添う活動家や弁護士さんなどが脅迫のような行為を受けるといってお話をお聞きして、とても悲しい気持ちになりました。

藤田さんの著書、身近な図書館には新刊として置かれていました！
今回も素敵な出会いを頂き、感謝しています。
ありがとうございました。（S Tさん）

高田さん、
メールを読ませて頂いた感想を書きます。
一番心に残ったのは、「良心的な性教育が潰された」の部分でした。

奥間さんは、ハンセン病差別の国策から生じた家庭内暴力に苦しんだご経験から、講演活動を始められました。
さて、私は？と思いました。
私は真面目な家庭に育ちました。
ただ、家でも学校でも、適切な性教育を受けた記憶がありません。「性」はいやらしいもの、恥ずかしいもの、気持ち悪いもの、人前で話せないこと、と思い込みました。
初めて彼氏ができたとき、とても好きな人と付き合えました。
でも、何を求められているのか、分からなくて困って、でも誰にも相談できず苦しくて、性に嫌な印象が残りました。

性に肯定的な印象を抱くようになったのは、ごく最近です。
私は昨年、ほぼ裸体のモデルになりました。
被写体の私は、とても綺麗で、「私って綺麗な女性だったんだ」と自然に思うようになりました。
いやらしいものではなかったのです。
「性」を肯定的におおらかに受け止められている、素敵な女性たちと一緒に活動できた経験が、私を成長させてくれました。
その経験に感動した私は、スピーチコンテストに出て話しました。

こうやって、一人一人の経験が、社会を少しずつ、幸せに変えていくのだな、
誰かの勇気や思いが、誰かを後押しして、社会はくるくる回っているんだなあ、と思いました。
（K Aさん）

高田洋子さま
「だら一つと憲法カフェ」の取り組みをお知らせくださりましてありがとうございます。
昨年は、考えてもいなかった戦争がウクライナで起こりました（起こっていました）。

最近になってこの戦争のいろいろが知られるようになってきましたが、戦争と経済制裁によって世界中が、特に西側諸国が影響を受け、「新冷戦」と言われるような世界を分断する様相を呈してきています。

ウクライナに武器と資金を提供し続けているアメリカはじめとする西側諸国、日本もその一員と言ってよい動きをしています。犠牲を出さないために一日も早い停戦をと声を上げたアフリカ、中近東、アジア、ラテンアメリカなどからの声は、まだ生かされていません。

私はロシア侵攻を見て、いたたまれず「週刊金曜日」広場に投稿しました。戦争はまだ続いています。アメリカが武器を送るのを止めると言わない限り続くでしょう。人のいのちが亡くなり続けます。

何故戦争が起こったか、私なりに色々調べました。日本から、国際NGO職員として、国連職員として、住民運動や紛争・内戦終結、NATOなどで働いてきた伊勢崎賢治さんの昨年暮れ沖縄で行った講演内容を長周新聞が紹介していました。事実に基づいてわかりやすく話されていますので、ぜひ読んでいただきたいと思います。孫崎亨さん、浅井基文さんの最新のものも添付します。

今年は昨年を引き続き、更に大変な年になるのではと危惧しています。

戦後私たちが享受してきた、変わらぬ平和を日常を、大切に守り抜いて行かねばと気を引き締めています。

本年もどうぞよろしく願いいたします。

昨年秋から地域の友人たちと原発再稼働反対の請願取り組みをしてきました。岐阜市は不採択になりましたが、隣の関市は採択されました。2月は西濃でと取り組んでいます。

原子力発電所の再稼働及び新增設は国民的議論を尽くした上で決定することを求める意見書

<<https://www.city.seki.lg.jp/cmsfiles/contents/0000001/1841/shigi4-12.pdf>>

<https://www.city.seki.lg.jp/cmsfiles/contents/0000001/1841/shigi4-12.pdf>

松井和子

.....

藤田さんからのメールに添付のあった新聞記事を二つ、次ページに貼り付けました。

.....

「人権実現は

政府の義務」

徳島市で研究者講演

英エセックス大研究員で

国際人権についての著書

「武器としての国際人権」

日本の貧困・報道・差別」

を出版した藤田早苗さんに

よる講演会が9日、徳島市

のとくしま県民活動プラザ



日本の人権教育の問題点や、国際人権について語る藤田さん＝徳島市のとくしま県民活動プラザ

で開かれ、オンラインも含めて約80人が耳を傾けた。人間らしく生きるために不可欠な「食糧への権利」や「居住の権利」「移動の

自由」などは全て、国際人権条約に盛り込まれていると説明。これらの人権を現する義務は政府が負っていると強調した。

英国では政府に対してデモ活動が盛んに行われており、最近では生理用品が買えないため登校できない生徒がいるのは「教育の権利」の侵害だとして、高校生がデモやキャンペーンを展開。低所得層への生理用品の無料配布や消費税免除へつつなげたとし、「政府に義務を遂行させるとい意識が強く、政策を変えてい

っている」と説明した。一方、日本では「子ども食堂」が好意的にとらえられるなど、「貧困問題に取り組むべき政府の義務が抜け落ちてしまっている」と指摘。「国際人権や人権条約について理解を深めて武器として使い、次世代のために行動を起こすべきだ」と訴えた。

(乾栄里子)

国際人権正しく知って

英工セックス大
研究員

藤田さん9日講演会

徳島市



藤田早苗さん

委員会が主催。講演会は午後2時からで、参加費千円(学生は無料。予約は不要。オンラインでも視聴可能で、希望者はメールsaito.takahito@gmail.comで申し込む。問い合わせは実行委の深田さん、電話090(3784)7254。(乾栄里子)

日本の課題や改善点聞く

人権の概念を誤解 権利主張に否定的

国際人権の専門家である英工セックス大研究員の藤田早苗さんによる講演会「世界から見た日本の人権―表現・報道の自由、ジェンダー、貧困」が9日、徳島市のとくしま県民活動プラザで開かれる。藤田さんは国際基準に照らして人権が守られていない日本の現状を指摘し、国際人権に対する意識を浸透させることの重要性を訴える。

藤田さんは国連人権機関に情報提供しながら会議や審査の傍聴を続けており、昨年12月には「武器としての国際人権―日本の貧困・報道・差別」を出版した。9日の講演を前に、世界からみた日本の課題や改善点について聞いた。

など八つの条約を批准している。条約内容の遂行に対して政府は責任を負うが、日本政府はそれぞれの条約機関から勧告を受けても改善に動くことは少なく、真摯に向き合っていない。

国内では、人権の概念が誤解されていると感じる。日本の人権教育は、思いやりの心情を育てるなどの道徳的教育と同一視されている。だが、本来の人権教育とは自らの権利を知り、その主体者として行動するための知識を学ぶことだ。

人権についての正しい認識がないため、日本の人々は権利を主張することに否定的なイメージを持っているようだ。人権を実現する義務が政府にあることが抜け落ちているから、貧困など問題が起きれば「自己責任」ばかりが強調される。政府に迎合しがちで、国際条約や国際人権について

十分報じないメディアにも責任はある。政府とメディア、市民。あらゆるレベルでの底上げが必要だ。人権の視点が身に付けば社会のさまざまな事象を見て「おかしい」と思う人が増え、弱者の声にも気付くようになると思う。

「聞き手」乾栄里子
日本は主な国際人権条約九つのうち、「女性差別撤廃条約」や「子どもの権利条約」「障害者権利条約」

県内の有志でつくる実行